

喜多方市の学校教育 資料6

喜多方市人づくりの指針「なかよく たくましく 生きる」

「なかよく たくましく 生きる」にこめられた内容



- 人を思いやり
敬います
 - お年寄りや弱い立場にある人をいたわる
 - 困っている人や悩みのある人を助け励ます
 - 先人や目上の人、親、先生を敬う

- 「こんにちは」「どうぞ」
「ありがとう」を言います
 - 明るい元気な声であいさつをする
 - ゆずり合いの心や感謝の気持ちを忘れない
 - 人の話をよく聞き、自分の考えや思いを素直に伝える
 - コミュニケーションの力を高める

- 勉強に励み
体を鍛えます
 - 本気になって勉強に取り組み、学ぶ喜びを体得する
 - 進んで読書をし、本を読む楽しさを知る
 - 規則正しい生活をし、進んで運動する
 - 自他の命を大切に^とする

- 人として
恥ずかしい行いをしません
 - 良心にそむく行いをしない
 - 社会生活のルールを守り、きまりの大切さを知る
 - うそをついたり人をだましたりしない
 - 人をいじめたり、差別したり、卑怯なまねはしない
 - あやまちは素直に認め、反省する
 - 礼儀を身につけ、ことばづかいを正しくする

- 喜多方を誇り
社会に役立ちます
 - 喜多方の自然や文化・歴史・伝統の良さを知り、愛する心を持つ
 - 社会に役立つことを進んで行う
 - ・ みんなと力を合わせ、よりよい生活の場をつくる
 - ・ ボランティア活動を進んで行う
 - ・ 地域の行事に進んで参加する

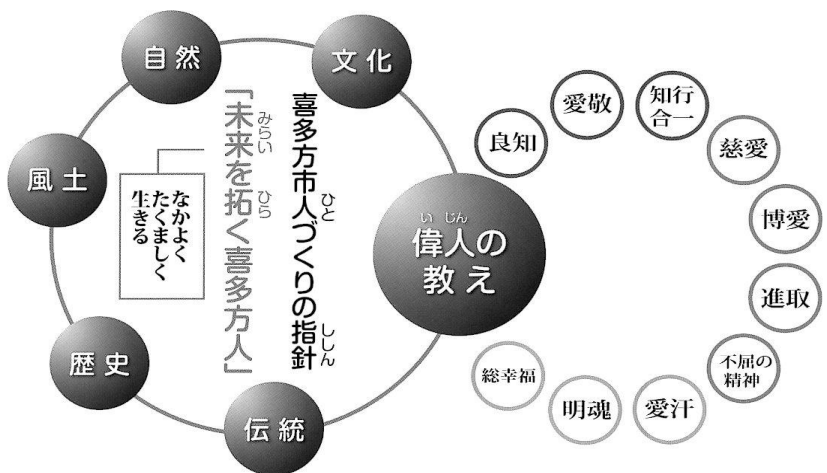
- 私たちは
くじけない
強い心を持って
目標に向かって
やりぬきます
 - 夢を持ち、目標に向かってくじけずに最後まで努力する
 - ・ 人の批評などにもめげず、それを生かしてさらに努力する
 - まわりの誘惑や自分の弱さに負けない強い心を持つ
 - ・ 特にゲームやメディア活用のルールを守る
 - ・ 自分かってな考えをおさえ、がまんする
 - 学んだことは工夫をもって実行しやりとげる
 - 広い視野に立ち、大きく羽ばたく意欲を持つ

喜多方市人づくりの指針 「なかよく たくましく 生きる」って何？

喜多方市人づくりの指針は、瓜生岩子刀自、蓮沼門三氏など、郷土の発展に尽くした先人や藤樹学の教えを尊重し、喜多方市の置かれた風土、文化、歴史等に、基づきながら作られました。（原文は最終ページをご覧ください。）

指針では「豊かな心、たくましく、くじけない強い心を持ち、未来を拓く人」を目指す姿を示しています。


「なかよくたくましく生きる」は指針を受けてつくられた、わたしたちの目指す姿です。毎日の生活に積極的に生かし、充実した生活を送りましょう。




なかえ どうしゅう
中江 藤樹

人の本心は善にして悪なし
これすなわち固有の良知に
して、人々皆しかり

中江藤樹は、近江の国の高島郡小川村（現滋賀県高島市）に今から380年前に生まれました。
藤樹の教えは、立派な道徳を身につけ父母や周囲に「孝」を尽くすことにあります。一人ひとりが自分の曇りのない心をつかむこと、つかんだらこの心に基づいて行動すること、そうすることで、親や子供を幸せにできるという考えです。
喜多方では約220年にわたりその教えが脈々と引き継がれています。



うらわ いわこ
瓜生 岩子

自分ばかりよくなつたつて
何にもならねえと思つたのす

瓜生岩子は、文政12年に小田付村（北町）に生まれました。
夫や母に先立たれた岩子は大変悲しみましたが、世の中には不幸な人が多いことを思い、それらの人のために尽くそうと決心しました。
戊辰戦争では、敵、味方の別なく傷ついた人を看護しました。また、貧しい人や親のない子供達の救済と教育に奔走し、日本のナイチンゲールと讃えられました。



はずめま もんそう
蓮沼 門三

愛なき人生は暗黒なり
汗なき社会は墮落なり

蓮沼門三は、明治15年に現在の山都町に生まれました。
地元の小学校を卒業後、東京の師範学校に入学し、そこで、友達と共に人格を向上させるための修養団をつくりました。
門三は98年の生涯をかけて「愛」の心ですべてのひとと仲良く、努力の「汗」を流して社会を良くし、すべての人が幸せになる明るい世界をつくらうと社会教育と社会事業に生涯を捧げました。

平成23年6月、喜多方市では、人材の育成、青少年の健全育成などを目的とした「喜多方市人づくりの指針」を策定しました。この指針を受け、児童生徒の目指すべき姿として「なかよくたくましく生きる」が作られています。学校、家庭、地域、行政の連携のもと、広く浸透を図っているところです。特に、小学校においては、副読本「先人からの贈りもの」の積極的な活用を図ってください。